

議事録要旨

会議名	第1回芦原温泉駅まちづくりデザイン部会
開催日時	平成28年7月12日(火) 19:30~22:00
開催場所	あわら市役所 正庁・301 会議室
出席者 (敬称略)	<p>【部会員(9名)】 福井工業大学 / 川島洋一(教授)、市民 / 笹原修之、西田幸男、あわら市 / 長谷川義則、中辻雅浩、山本紹央、細川正樹、坂井真生、竹内優美</p> <p>【オブザーバー(4名)】 日経BP社 / 高津、大広 / 新島(記)、大広北陸 / 芦澤、言葉や / 杉田</p> <p>【事務局(1名)】 あわら市総務部 / 赤神貴幸(主査)</p>
欠席者 (敬称略)	<p>【部会員(3名)】 市民 / 高木めぐみ、森嗣一郎、八木康史</p>
協議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1.あわら市地域ブランド創出事業の概要説明 / 各部会の概要説明 2.部会長の選定 3.市民参加型形式の進み方を体感してアンケート内容の記載と、自己紹介 4.コンペ参加デザイナーの本案件への関わり方の議論 5.芦原温泉駅まちづくりデザインを検討するにあたり、対応していくエリアの範囲に関する議論 6.次回までの課題確認とスケジュール調整
会議内容 の要旨	<p>(進行)事務局(あわら市政策課) 笹原氏を「芦原温泉駅まちづくりデザイン部会・部会長」に選出</p> <p>(進行交代)日経BP社 部会員にあわらの未来づくりアンケートに取り組んでいただく(以下、回答まとめ)。 自己紹介も兼ね、各部員に発表いただく。以下まとめ。</p> <p>部会長：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 旧芦原町・金津町の2町合併の際からまちづくり活動に邁進。まずは、異なる町の(住民や環境・背景といった)お互いの立場を考えた。 ◆ 今のままでは、自分たちの子どもなどが将来このまちに住んでくれるのか、という危機感がある。 ◆ あわら市には温泉やおいしい食べ物といった、10~20年後も変わらないであろう普遍的な価値がある。 ◆ 駅前に行けば何か売っている、何かがある、誰かがいる。そういったワクワク感が全くない。 ◆ 芦原温泉駅は、福井県にとって「北の玄関口」。県内の他の観光名所に、もっと並んでいきたい。

議事録要旨

部会員：

- ◆ 駅前商店街で時計・眼鏡・宝飾店を営んでいて、駅前商店街の振興会にも所属
- ◆ 芦原温泉に降り立った際に、駅前で時間を潰せない。それは、宿泊後に帰る際も同じ
- ◆ 昨今は、駅前や堤防周辺などが「ちはやふる」の舞台になった影響からも人が立ち寄る光景も見受けられる。
- ◆ 「駅前に行けば、何かがある」としたい。そして、そこには地元の方々も集まる。
- ◆ あわら市は、そもそも歴史が深いまち。温泉もあるし、工業もある。

部会員：

- ◆ 金津町生まれの、金津町育ち
- ◆ あわら市は、少子高齢化が進む中でも老害なく安心して暮らせるまちで、社会としては理想形
- ◆ 在住人口の上振れが見込みづらいなが、人の流入や交流が重要
- ◆ 企業を誘致する、その前にビジネスホテルを作るなど、中長期的視野でのマーケット創出も必要では？
- ◆ なぜなら、新幹線は単純にお金を運んでくるものではない。
- ◆ また、あわら市単体ではなく、広域で連携していくことも重要

部会員：

- ◆ あわら市は、病院・警察・消防・学校等がすべてコンパクトにまとまったまち
- ◆ 個人的には、自転車レーンの整備などがあればいいと思う。
- ◆ 駅周辺エリアに望むことは、様々な方が交流でき、市民も集まることができるような空間であること。
- ◆ あわら市は、駅を中心に東西でイメージが異なる。西 = 温泉 やさしさ。東 = 工業 力強さ

部会員：

- ◆ 自分が市民として、暮らしやすい。そして、今後も都会のようにはなってほしくない。
- ◆ まちとしては、居心地がよくて、癒しがあるのが理想
- ◆ やはり、温泉のまちとして、駅を降りたったら温泉まちとしての情緒があふれ、癒される雰囲気

議事録要旨

部会員：

- ◆ 幼い頃は駅前にはおもちゃ屋があり、中学校の頃には何の用事もなくても駅前に行ってパンを買ったり、誰かに出会えたりもして、今とはまったく様子が異なった思い出がある。
- ◆ 都会的では実現しづらいような、お年寄りから小さな子どもまでもが癒され集まれる場になればいいと思う。
- ◆ 広域で連携していくことも重要
- ◆ 他でやっているようなことの二番煎じは避けるべき

部会員：

- ◆ 自らも高校生のころは、駅前のコンビニに友人と集っていた。
- ◆ 現在、二人の子どもがいるが、子供と散歩に出かけたくなる、目的なく行きたくなる、そんなエリアにしたい。
- ◆ 以前も駅周辺開発に従事していたが、その際に「豊かな自然に、歴史を感じさせる駅」と考えたが、今でもあわら市を体現したコンセプトではないかと考えている。

部会員：

- ◆ 東温泉に生まれ、昔から温泉によく入っていた。祖母から古き良き時代のにぎわいも聞いている。
- ◆ 学生から社会人にかけて都市部に出たが、その頃でも頻繁に帰省。30歳までにはあわら市に戻ってきたいと考えていた。
- ◆ 現在でも、月に1～2回程度は温泉に行く。
- ◆ 先ほども話が出たが、あわら市は「コンパクトシティ」だと感じる。
- ◆ 駅周辺エリアに求めるのはユニバーサルな空間。子供も大人もお年寄りも、みんなが無理なく使える。
- ◆ 最近初めて旧金津町の祭りに行ったが、旧芦原町よりも深い歴史や文化を感じた。
- ◆ 古くから宿場町といわれるが、現状では浴衣で歩きたいと思わないのではないかな。
- ◆ やはり、福井県、もっと言うと「越前国の北の玄関口」という事実は伝えたい。

部会員：

- ◆ 建築出身で、7年前にデザイン学科立ち上げの際に現在の学科に就任

議事録要旨

- ◆ 大阪・池田市生まれで、兵庫・宝塚市育ち。いい意味で、よそ者の視点を持ち込めればよい。
- ◆ 引っ越しは、国内外含め 13 回ほど経験し、現在の福井市が一番長く定住していることになった。
- ◆ 今後の社会を見据えると、様々な価値観を許容していくまちにしていくべきではないか。
- ◆ 自分も福井県に赴任してきた際、最初はまとまった社会で入りづらかった。
- ◆ しかし、交流を深めていくと、打ち解けて仲良くなれる。
- ◆ 駅舎は建築としてのインパクトや印象深いものにすべきと考える。例えば、建築を学ぶ学生なんかは必ず見に行く。
- ◆ 建築や構造物は、実際に見て体験しないことには、得られる感動はない。
- ◆ 都心部では、エキナカという、駅の中の商業施設がにぎわいもあり、かつ象徴的。
- ◆ 自分もそうだが、見たい体験したい建築であれば、世界のどこでもわざわざ行ってみたい。
- ◆ 観光客は休暇やリゾートなど「別世界」に行きたいと考えている。そういう観点から、駅もいい意味での「別世界」であるべきではないか。周りから浮き上がるような「別世界」ではなく、観光客にわくわく感を感じさせるような仕上がりで、かつ地元民にも受け入れられるようなものになるのが望ましいと思う。

その他：

- ◆ 新幹線の駅ができて、結果的にまちづくりが呼応してない（駅舎とまちづくりのコンセプトやイメージが乖離しすぎている等）ということだけは避けたい。
- ◆ 依頼するデザイナーには、バイアスをかけた状態からスタートしてもらってはせず、本来の力を発揮しやすいように、外からの目でフラットにまずは考えていただくためにも、事前に情報をインストールしすぎることはしない。
- ◆ 加えて、市の職員は現地調査の際は、付随しない方がベスト（随行することで自然とバイアスをかけてしまう / 観光名所を点と点での現地紹介を行ってしまうこと / 周遊ルートに関しても行政が主導となって決めた経緯もあり、それすらも今回はフラットにすべきでは等）

【次回までの課題】

議事録要旨

1. 第 1 回での実施内容を踏まえ、デザイン部会の議題をアンケート質問項目を基に再考。可能な限り駅周辺だけに限らず、どのエリアで、どういった体験ができるかという、具体的なイメージの模索

(アンケート質問項目)

Q3：将来、JR 芦原温泉駅周辺がどのようになると思いますか？

Q4：北陸新幹線芦原温泉駅はどんなデザインコンセプトがいいと思いますか？

また、具体的に説明してください。

👉 第 1 回のデザイン部会での内容を鑑みると、一度、行政側が主導している規定の周遊ルートは一旦置いておき、市全体も含めた視野で考えてみるべき。また、駅周辺で言うと、西口と東口の機能や役割を明確に分けたほうがよいのではないか。

👉 新幹線駅舎が 3 階建てと、現在よりも高層になる点も考慮すべき。例えば、3 階という空間のダイナミズムの変化に加え、高層階からの目線での眺望は、低層階（地上や 2 階からの地上連結部）での目線での眺望とは大きく異なる。

👉 キーワードは空間の機能都市という意味合いでの「出会い」。参加者の中からも、「わくわく感」「にぎわい」「集い」「癒し」などのワードが多く見受けられたが、あくまでそれらは空間が創出された結果、享受される感覚や雰囲気。

2. 自分たちが実際に体験した（したい）憧れの事例探し（「あの街の、こんなところが好き」など）

部会員の間で価値観を共有しやすくすることを目的に、具体的な事例を各自で収集。

第 2 回デザイン部会 | 日時 / 7 月 29 日 (金) 19:30 ~

【予定される議題】

👉 まちづくりデザインコンペに参加するデザイナーを呼び、まちづくりデザイン部会で紹介。デザイン部会としての要望や市民の代表としてイメージするまちの将来像をデザイナーたちに伝えてもらう。

👉 デザイナーたちには翌 30 日に芦原温泉駅周辺の視察を行ってもらい、デザイン案に向けた構想を練ってもらう。(取材スタート)

議事録要旨

	<ul style="list-style-type: none">◆ 参加デザイナーの紹介（自己のポートフォリオを基に）◆ 上記、課題の発表と意見交換◆ デザイナーとデザイン部会メンバーとの意見交換 / 要望吸い出し
--	---